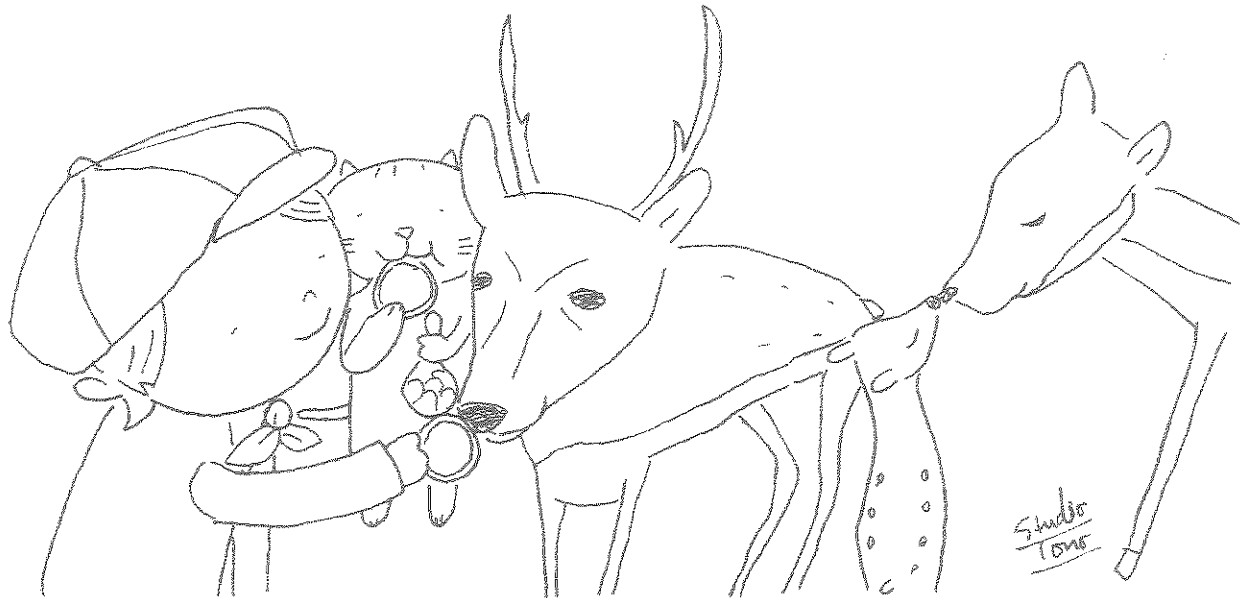


ボランティアグループがつくる和歌山県男女共働参画センターの書評誌

# この本よんだ？

～りいふる BOOK プラス～



## 農ガール、農ライフ

垣谷美雨 著 祥伝社 2016年 (K:エッセイ・文学)

最近、若者の有機農業に関する関心が高まっている。そんな中だから興味深く読める小説です。

主人公は、都会暮らしの32歳女性、派遣切りにあうと同時に同棲相手から別れを切り出された。仕事と彼氏と住むところがなくなったという切羽詰まった時に、目にしたのはTVの「農業女子特集」。若い女性が成功している例をみて、これだ！と思い、田舎に引越し、農業大学校に入学する。野菜作りのノウハウを習得し、自立しようと試みるのだが、独身女子には土地を貸さない、自然は厳しいなど壁は厚くこんなはずではなかったと思い知らされることはある。果して農業女子に幸福は訪れるのか？

(カ)



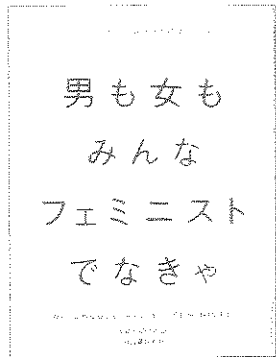
# 男も女もみんなフェミニストでなきゃ

チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ 著 くぼたのぞみ 訳

河出書房新社 2017年 (K:エッセイ・文学)

本書は、約30分間のスピーチに若干の加筆を施したもので、分かりやすいながらも切れ味の鋭い話がテンポよく詰め込まれており、総ページ数100ページの大変読みやすく面白い本である。著者はナイジェリア出身で、一児の母となつてからも旺盛に活躍している世界的な作家である。

フェミニストの辞書的な定義は「社会的、政治的、経済的に両性が平等だと信じる者」のことである。フェミニストやフェミニズムという言葉に拒否反応を示す男性は少なくない。著者は「まえがき」でこれらの言葉にもス



テレオタイプの型がはめられていると思えてならないと指摘する。例えばフェミニストは男嫌いで、化粧をしないなどのイメージを背負わされている。著者のフェミニストについての定義は「男性であれ女性であれ、『そう、ジェンダーについては今日だって問題があるよね、だから改善しなきゃね、もっと良くしなきゃ』という人」だと言う。本書の中には、男女平等について考えさせられる数々の事例がちりばめられており、それらを読んでいくうちに、ジェンダーに関する理解を深めていくことができる。

高校生ぐらいになれば十分理解できる内容なので、是非若い人にも読んでいただきたい。

(O.S)

# 寂しい生活

稲垣えみこ 著 東洋経済新報社 2017年 (K:エッセイ・文学)

知る人ぞ知るアフロの稲垣さん、新聞社を辞めたりしてさては寂しくなったのかと思いきや、なんのなんの奇想天外な冒険の世界へ踏み込み、今なお果敢に邁進している物語である。

いわゆる密林や極地への冒険ではなく、「豊かさ・便利さ」に満ちた日本の今に生きる著者自身の日常生活の場が舞台で、なんと「脱家電」を決意して根底から生活を改革してゆくという壮大な冒険物語なのである。

冒険のきっかけはあの原発事故。著者は



「あまりの惨事に、我々は原発がなくても生きられるはずだと、勝手に節電を始めた」のだ。そしてついには、「便利さ」のシンボルでもある「冷蔵庫も洗濯機もテレビも」捨ててしまう。

いったい、どのように生活していくのか。

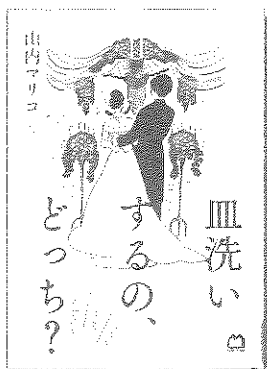
本文全6章中、4章までは主に各家電ごとの実録で、著者の卓越したアイデア、実践が描かれ、5、6章は一字一句胸に伝える、さすがのまとめという構成である。

寒暑はエアコンに頼り、巨大冷蔵庫に食品を詰め込み、腐らしては捨て、衣類は断捨離が流行語になるほど買い込む、こんな日常を写す鏡のような著書だと思った。

(大空)

## 皿洗いするの、どっち？

山内マリコ 著 マガジンハウス 2017年 (K:エッセイ・文学)



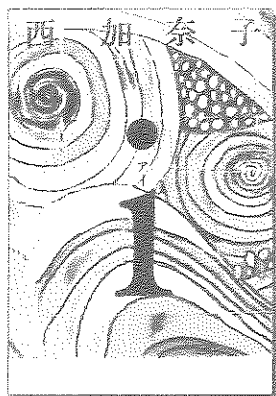
男女が結婚を前提に同棲生活を送ることがある。しかし、してみるとこんなはずではなかったとか、こんなところがあるのかと再発見することや嫌になることもある。

しかし、なんとか結婚にむけて、うまくやっていこうと折り合いをつけていく。このような過程をこの本の中で著者は書いている。

著者の話だけだと女の言い分でごちにししかおわらないのだが、途中でパートナーの男性の言い分がはいっているのでお互いの言い分が納得いくのである。 (カ)

## i (アイ)

西加奈子 著 ポプラ社 2016年 (K:エッセイ・文学)



「この世界にアイは存在しません。」高校の入学式の翌日、数学教師が授業で言った言葉で物語は始まる。この一文は、事あるごとに挿入され展開されていく。

アイは、アメリカ人の父、日本人の母のもと裕福な家庭で育つ。しかし、シリア生まれの養子であるがゆえに、心の葛藤が常に付き纏う。解き放たれて、アイ自身が心から自分の存在価値を認める日々は訪れるのか？

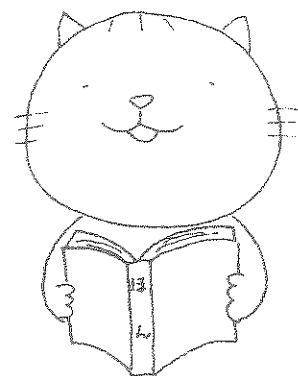
主要な登場人物の名前に重要な意味をもたらす、著者の筆力の凄さに驚かされながら、リアルな描写に一気に引き込まれてしまう、素晴らしい一冊です。ぜひ、読んでみて下さい。 (K)

## 一度も”りいぶる”に行った事がないというあなたへ

私達の紹介している本は、和歌山市にあるビッグ愛 9 階の和歌山県男女共同参画センター”りいぶる”の図書・情報スペースにあります。和歌山市の東部を見渡せる眺めのいい場所にあります。

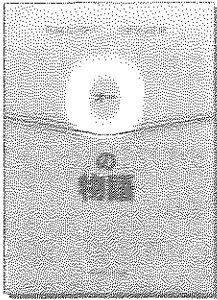
男女共同参画に関する図書、絵本、マンガ、DVD、資料などが1万冊あるというこじんまりしたスペースです。

最近では私たちが紹介している本を展示してくれています。ぜひ近くにお越しの際はお立ち寄りください。



オー  
Oの物語

ロザベス、M. カンター 著 三井マリ子 訳 レターボックス社 1989年 (F:子育て)



X(エックス)は多数派、O(オー)は少数派。最初はOを主体で描かれているが、様々な場面を用いることにより、状況や立場が入れ替わっていく。言葉遊びがスパイスを加え、ページをめくるたび、新たな気づきが生まれる。1989年発行、今から29年前とは思えない、大人のための絵本です。ぜひ読んでみて下さい。

(K)

子や孫にしばられない生き方

河村都 著 株式会社産業編集センター 2017年 (K:エッセイ・文学)



子や孫に嫌われたくないから自分を犠牲にして無理な生き方をするのは、自分に何かあった時頼りたいから。しかし期待は捨てる。

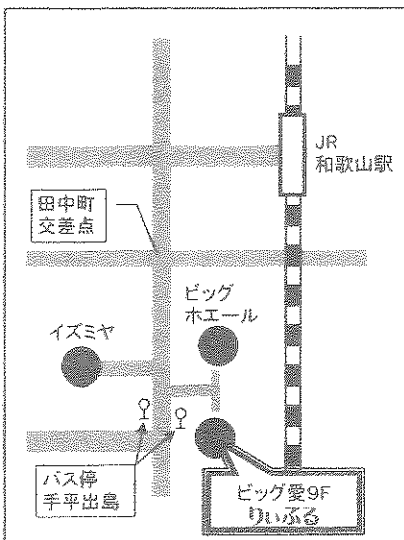
一人で生きてく覚悟を持ったほうがずっと自由で気楽で生きやすくなる。お金も家族間でこそ、シビアに明朗会計であるべき。子はとつくに親を超えているという言葉にハッとする。親としての見栄をはり、子離れできないのは自分。子や孫には元気で楽しい姿を見せるのが一番。

子や孫を命と思っている私にとっては、目からうろこが落ちる思いだった。

(は)

※“りいぶる”での分類記号一覧

A:フェミニズム B:労働・法律 C:家族・結婚 D:女性・子どもに対する暴力 E:こころ・癒し F:子育て G:からだ  
H:セクシュアリティ I:女性史 J:自伝・評伝 K:エッセイ・文学 L:高齢社会・福祉 M:男性学 N:資料・雑誌 O:その他  
P:AV 資料 Q:コミック R:NPO サポートセンター所蔵図書



この本 よんだ? 第17号 (2018年10月発行)

◇企画・発行 りいぶるぶらす

◇協力 和歌山県男女共同参画センター“りいぶる”

【編集後記】今年度よりこの書評誌の発行も年二回になりました。集まる回数が減り、さびしく思っていたのですが、このたび11月24日(土)にビッグホエールで行われる「人権フェスタ」のりいぶる講演会会場に書評誌を展示してみようかなとみんなで話しています。(予定)

どうか私たちに会いに来てください。

次号は2019年3月発行予定です。

★あなたも書評を書いてみませんか? ボランティアスタッフ募集。メールでお問い合わせください。E-mail [libreplus@yahoo.co.jp](mailto:libreplus@yahoo.co.jp)